

2017 年度小委員会活動成果報告

(2017 年 月 日作成)

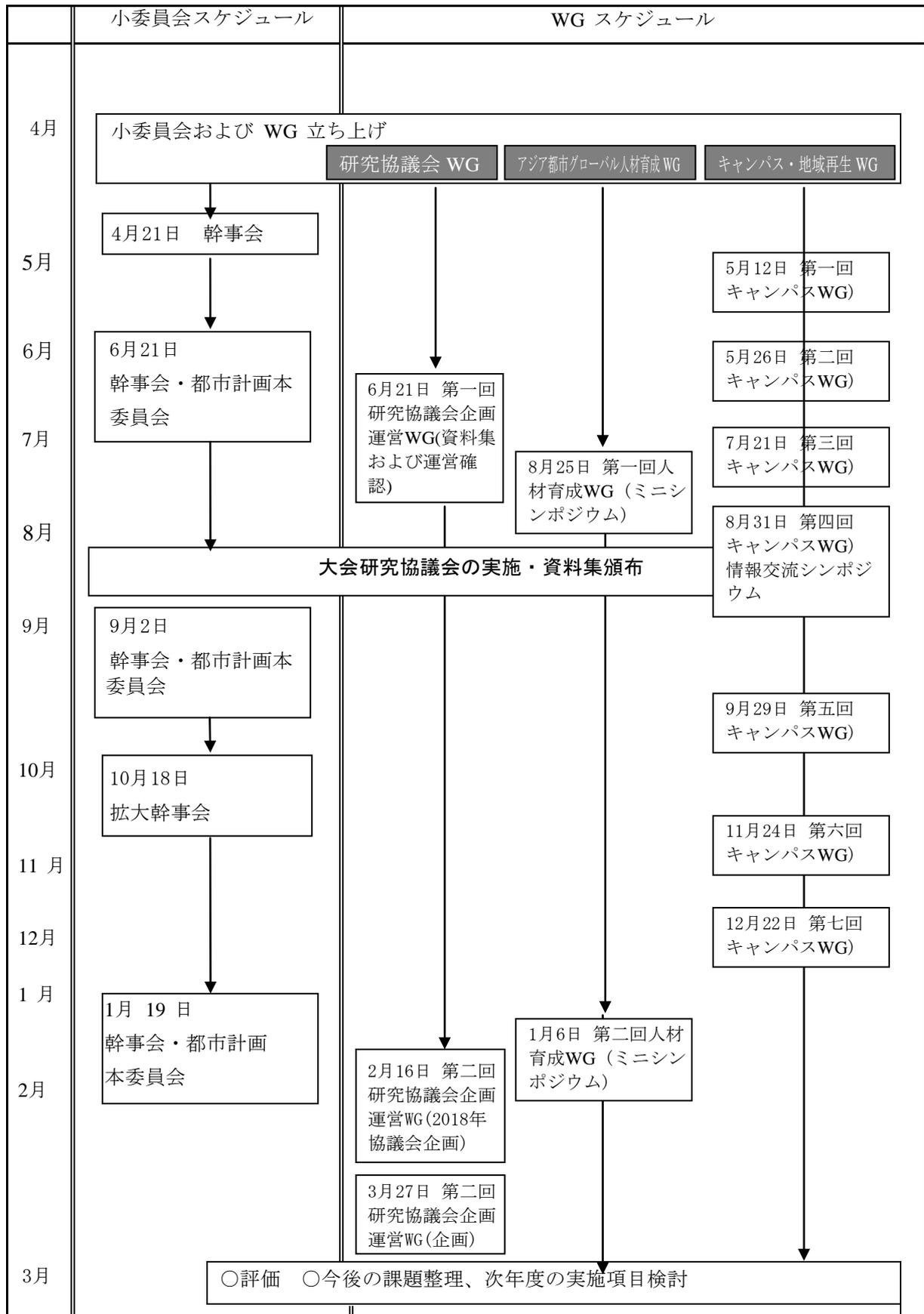
小委員会名	企画戦略小委員会	主 査 名：鵜 心治 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：鵜 心治 主 査 名：鵜 心治
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	都市計画委員会所属の各小委員会およびワーキンググループにおける研究活動成果を体系化し、出版物刊行、講習会・シンポジウム開催などを通して専門実務家や地域社会への公開と普及の促進を積極的に推進することを目的とする。上記目的達成のため、具体的な出版物や講習会などの成果として結実させることを重点目標とする。 また、都市計画本委員会のホームページにより、各小委員会およびワーキンググループのホームページへのリンクや出版・シンポジウム等の情報発信により、活動成果の公開と地域社会へ普及することを目的とする。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査 鵜 心治	山口大学 工学部感性デザイン工学科
	幹事 石村 壽浩	ランドブレイン株式会社
	幹事 樋口 秀	長岡技術科学大学 環境・建設系
	浅野 純一郎	豊橋技術科学大学 建設工学系
	有賀 隆	早稲田大学大学院 創造理工学研究科
	木下 光	関西大学
	趙 世晨	九州大学大学院 人間環境学研究院
	小篠 隆生	北海道大学
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア都市グローバル人材育成 WG ・キャンパス・地域再生 WG ・研究協議会企画運営WG 	
2017 年度予算	225,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：－

項 目	自己評価
委員会開催数	各 WG 2 回程度 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. 情報交流シンポジウム (第 21 回)「大学が支援する地域再生の現場」
大会研究集会	1. 研究協議会：「コンパクトシティの政策・計画からデザインへ」 参加者数 222 名 資料：コンパクトシティの政策・計画からデザインへ 260 部完売
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 都市計画部門研究協議会「コンパクトシティの政策・計画からデザインへ」を企画し、運営を支援した。 2. 新規研究活動テーマの検討、立案、実施 <ul style="list-style-type: none"> ・アジア都市グローバル人材育成など「国際化」に対応した研究テーマの立案及び新規 WG の立ち上げ 3. 出版、講習会、シンポジウム等の企画、立案、実施へ向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ・情報交流シンポジウム（第 21 回）「大学が支援する地域再生の現場」（キャンパス・地域再生 WG） ・2016 年度新しい住環境価値の創造小委員会、2016 年度環境都市計画 WG 等の出版支援 など 4. 各小委員会ホームページの管理
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>特になし</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

2017 年度 小委員会活動計画



2017年度 WG 活動計画および自己評価

(20 年 月 日作成)

活動計画

WG 名	キャンパス・地域再生 WG	主 査 名：小篠 隆生 就任年月：2017年 4月
所属小委員会	企画戦略小委員会	委員長名：○嶋 心治 主 査 名：○嶋 心治
設 置 期 間	2017年 4月～2019年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>持続可能な都市や地域の今後のあり方を考える上で、大学キャンパスやその機能が地域再生の拠点となる可能性を探ることは、これからの都市・地域の計画的経営に大きな示唆を与えることが期待される。そうした中で求められるのは、従来型の計画主導的視点とともに、小さな活動を丁寧に積み上げながら空間や環境の向上を目指す参加型デザインの視点の双方の連動である。</p> <p>本 WG は、キャンパスを1つの手がかりにこれからの地域のサステナビリティを向上させるために必要な計画・デザイン理念と手法を明らかにすることを目的とする。成果を積み上げながら、設置期間終了後も小委員会としてさらに研究を発展させていくことを目指す。</p> <p>キャンパス・地域再生 WG では、設置目的の達成に向け各年度において以下の活動を実施する。</p> <p>初年度：活動体制の構築、オーガナイズドセッションの企画・実施、新たな研究活動関連情報の人的・物的交流を目指した「情報交流シンポジウム」の企画・実施、出版企画の実現。さらに、2年度にわたり展開する新たな研究活動のシーズ獲得のための活動企画立案を行う。</p> <p>2年度：初年度の活動を引き続き実施すると共に、他小委員会（例：空間研究小委員会／建築計画委員会）や関連団体（例：サステナブルキャンパス推進協議会や、JAFMA など）さらには都市に学びの場をつくる多様な取り組みとも連携しつつ、設置目的である地域のサステナビリティ向上のための種々の計画理念と手法を検討する。さらに、WG 活動のまとめの公開研究会を実施する。</p>	
WG 構成 (氏名 (所属))	委員公募の有無：有 (名) 無 主査：小篠隆生 (北海道大学)、幹事：吉岡聡司 (大阪大学)、幹事：太幡英亮 (名古屋大学)、斎尾直子 (東京工業大学)、鶴崎直樹 (九州大学)、恒川和久 (名古屋大学)、安森亮雄 (宇都宮大学)、小貫勲子 (東北大学)、武田史朗 (立命館大学)、池上真紀 (北海道大学)	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価			
	4段階評価※2 A B C D			
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>本年度の活動計画は、①オーガナイズド・セッションの企画・実施、②情報交流シンポジウムの企画・実施、③新たな研究活動のシーズ獲得のための活動企画の立案であった。オーガナイズドセッションでは、キャンパス立地と都市環境、キャンパス空間のデザイン、キャンパス空間の評価とマネジメント、地域環境向上に寄与するキャンパス計画という切り口で、計 13 題の論文発表と討論を行なった。</p> <p>情報交流シンポジウムでは、「大学が支援する地域再生の現場」というタイトルで、中国・四国地域の大学と大学だけでなく、大学関係者が入り新しい活動団体を形成している動きなどを報告してもらい、今後の方向性を議論した。</p> <p>活動企画では、年度末の 2018 年 3 月にキャンパス計画や大学の施設整備などに実際に関わる担当者（設計・計画事務所、行政など）との勉強会を開催し、キャンパス計画や設計を進めていくための課題や方向性を共有することを企画し、実施する。</p> <p>出版企画に関しては、目次構成、アブストラクトの作成を行い、ほぼ原稿執筆の段階まで到達した。</p>			
WG 開催数	当初予定	7 回	開催数	8 回

WG 参加状況	1. 5月12日 7人 2. 5月26日 10人 3. 7月21日 16人 4. 8月31日 13人 5. 9月29日 11人 6. 11月24日 12人 7. 12月22日 12人
成果	雑誌「文教施設」に情報交流シンポジウムの結果を投稿し12月号に掲載された。
WG 活動の問題点・課題	特になし。

2017 年度 WG 活動計画および自己評価

(20 年 月 日作成)

活動計画

WG 名	アジア都市グローバル人材育成 WG	主 査 名：趙 世晨 就任年月：2017 年 4 月
所属小委員会	企画戦略小委員会小委員会	委員長名：鵜 心治 主 査 名：鵜 心治
設 置 期 間	2017 年 4 月～2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>成長都市を抱えるアジア諸国では、国境を跨ぐ国際的な問題を解決するために、グローバルな視点に立脚した高度専門教育と人材育成の推進が喫緊の課題である。そこで、本 WG では、“Think globally, act locally”を念頭に、アジア産業界からの要望も鑑みて、ローカルな実践に関与しながらも、グローバルな視点を持つ人材を育成するために必要な教育プログラム及び要素技術の体系化を検討し、学会の「場」を活用した国際教育ネットワークの形成を目指すことを目的としている。</p> <p>初年度： 1) 国際化教育情報の収集と共有、2) 国際シンポジウムの開催</p> <p>次年度： 1) 教育プログラムの構築の検討、2) 国際教育プログラムの一環としてサマースクールや国際ワークショップの実施</p>	
WG 構成 (氏名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>趙世晨 (九州大学)、小川勇樹 (愛知大学)、有賀隆 (早稲田大学)、鵜心治 (山口大学)、沈振江 (金沢大学)、木下光 (関西大学)、長聡子 (日建設計)、吉中美保子 (西日本鉄道株式会社)、辛島一樹 (豊橋技術科学大学)、黒瀬武史 (九州大学)、宋俊煥 (山口大学)</p>	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価			
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4 段階評価 *2 (A) B C D			
	<p>本年度は二回のミニシンポジウムを開催し、情報収集及び意見交換につとめた。具体的には 2017 年 8 月福岡市にて「アジア都市・建築グローバル人材育成に関わる教育プログラムの実態」、2018 年 1 月中国南京市 (東南大学) にて「Symposium on Internationalization of Asian Urban Planning and Architecture Education」を題して、国内外から多くの教育者にそれぞれの大学ないし国の都市・建築教育の国際化に関する取り組みや事例を紹介して頂き、グローバル人材育成に関わる教育プログラムの実態及び情報を共有することができた。また、都市・建築におけるホーリスティック教育の重要性が指摘されるなど、今後の取り組みに向けての共通認識及び課題がある程度明らかとなった。</p>			
	WG 開催数	当初予定 1 回	開催数 2 回	
	WG 参加状況	1. 8 月 25 日約 60 人 2. 1 月 6 日約 90 人		
成果	<p>本年度 2 回のシンポジウムの開催は、情報共有のみならず、今後アジア都市グローバル人材育成に必要な国際ネットワークの形成にも有益なものとなった。</p>			
WG 活動の問題点・課題	<p>特にないが、あえて申し上げますと、活動経費の捻出は厳しいものであった。</p>			

2017 年度 WG 活動計画および自己評価

(20 年 月 日作成)

活動計画

WG 名	研究協議会企画運営 WG	主 査 名：鵜 心治 就任年月：2017 年 4 月
所属小委員会	企画戦略小委員会	委員長名：鵜 心治 主 査 名：鵜 心治
設 置 期 間	2017 年 4 月～2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・2017 年 9 月に広島で開催される大会・研究協議会開催へ向けての論点整理と意見の集約を行い、研究協議会当日の運営を行う。 ・2018 年 9 月に仙台で開催される大会・研究協議会開催へ向けての論点整理と企画準備を行う。 	
WG 構成 (氏名 (所属))	委員公募の有無：無 鵜心治 (山口大学)、石村寿浩 (ランドブレイン)、栗山尚子 (神戸大学)、趙 世晨 (九州大学)、樋口秀 (長岡技術科学大学)、村上正浩 (工学院大学)	

WG 活動自己評価

項 目	自己評価	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	4 段階評価 ※2 A B C D	
	十分な論点整理と意見の集約を行い、研究協議会の企画立案、資料集の作成を行うことができた。 研究協議会は222名が参加し、資料集は260部完売となった。	
	WG 開催数	当初予定 3 回 開催数 3 回
	WG 参加状況	1. 6 月 21 日 6 人 2. 2 月 16 日 6 人 3. 3 月 27 日 (予定) 6 人
成果	WG では論点整理と意見集約を集中的に行い、十分な成果をあげることができた。	
WG 活動の問題点・課題	特になし	

※ WG 活動計画および自己評価は本書式を基本とする。ただし、それぞれの WG において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

※2 A 評価：WG 設置目標に対し、80%以上の達成度、B 評価：WG 設置目標に対し、70%から 80%の達成度、C 評価：WG 設置目標に対し、60%から 70%の達成度、D 評価：WG 設置目標に対し、60%以下の達成